＜実践報告＞

eALPS を活用した文化人類学の授業実践報告
－世界のおもな農作物と家畜－

阿久津昌三　　信州大学学術研究院教育学系

Report on the Practice of eAlps-Based Lessons of Cultural Anthropology
－Crops and Domestic Animals in the World－

AKUTSU Shozo: Institute of Education, Shinshu University

研究の目的	本報告は，eALPS を活用した 2015 年度後期及び 2016 年度後期「文化人類学Ⅰ」の授業実践を報告することで，文化人類学の授業実践に関する事例研究を行うことが目的である．
キーワード	e-ALPS　文化人類学　授業教材　農産物　家畜
実践の目的	文化人類学の ICT 活用
実践者名	阿久津昌三
対象者	信州大学教育学部 2・3 年生
実践期間	2015 年度後期及び 2016 年度前期
実践研究の方法と経過	・授業概要のガイダンス ・世界のおもな農産物と家畜 ・世界の農耕文化と牧畜の諸類型 ・照葉樹林文化と落葉広葉樹林文化 ・レポート課題と ICT 活用 ・レポート課題選定図書と学生相互の評価
実践から得られた知見・提言	・自文化と多文化とを相互に理解すること ・グローカルな視点を身につけること ・教科書を通して世界を読み取ること ・テーマを設定する能力を身につけること ・口頭発表（プレゼンテーション）能力を身につけること ・現代の社会問題となっているものと結びつけること

１．はじめに

eALPS とは，2007 年度より信州大学が提供している教育支援システムのことであり，e-Advanced Learning Platform in Shinshu University を略したものである．実践者は「文化人類学Ⅰ」「文化人類学Ⅱ」「社会学基礎」「社会調査特講」「社会調査実習」等の授業で eALPS を活用してきた．eALPS には，(1) お知らせの掲載，(2) 資料の配布，(3) 課題の提示と提出，(4) 掲示板で情報交換，(5) アンケート調査，(6) オンラインテスト，(7) 成績の管理，(8) 受講生にメール送信，(9) 受講生のアクセス状況の 9 つの機能があり，実践者は，主に，(1) お知らせの掲載，(3) 課題の提示と提出，(4) 掲示板で情報交換，(8) 受講生にメール送信の機能を利用して対面授業の補完やオンライン学習のツールの手段としている．特に，(3) 課題の提示と提出を受けて，授業時に講義室でスクリーンに映し出してプレゼンテーションを受講生にもとめている．(4) 掲示板で情報交換はレポートの学生による相互評価に使用している．(8) 受講生にメール送信は，レポート未提出者に対する督促メールの送信や介護等体験で出席できなかった学生に課題提示の連絡などに使用している．

本報告は，eALPS を活用した 2015 年度後期及び 2016 年度後期「文化人類学Ⅰ」の授業実践を報告することで，文化人類学の授業実践に関する事例研究を行うことが目的である．2015 年度後期の「文化人類学Ⅰ」が「世界のおもな農作物」，2016 年度後期「文化人類学Ⅰ」は「世界のおもな家畜」をとりあげた．

２．世界のおもな農産物と農耕文化の諸類型

2.1　世界のおもな農産物

中学校の地理の教科書にはかならずと言ってよいほどにグラビアには「世界のおもな農作物」と「世界のおもな家畜」のカラー写真が掲載されている．「文化人類学Ⅰ」の受講生は中高一貫校又は高等学校の教員を目指す学生たちである．

第 1 回の授業では授業概要のガイダンスを行った．第 2 回の授業では帝国書院の「世界の農産物」と東京書籍の「世界の主な農産物」の資料を配布した（帝国書院 2016;東京書籍 2016）．

帝国書院の『社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の国土』には，稲（米），小麦，大麦，ライ麦，とうもろこし，大豆，じゃがいも，タロいも，キャッサバ，茶，コーヒー，カカオ，綿花，てんさい，バナナ，天然ゴム，油やし，なつめやしが解説とともに掲載されている．東京書籍の『新編　新しい社会　地理』には，小麦，稲（米），とうもろこし，ライ麦，えん麦，もろこし，ひえ，きび，じゃがいも，キャッサバ，ヤムいも，タロいも，コーヒー，カカオ，オリーブ，さとうきび，てんさい，アブラやし，なつめやし，ココやし，綿花，コルクがし，ジュート，ゴムが解説とともに掲載されている．東京書籍の「世界の主な農産物」の写真には国名が記載されているがいらない情報であるように思われる．東京書籍では「世界の主食」というコラムがあり，米，小麦，大麦，雑穀（もろこし・き

びなど），とうもろこし，いも類（じゃがいも・キャッサバ・タロいも・ヤムいも・料理用バナナなど），肉食（豚・牛・羊・鳥・魚など），麦類＋いも類，肉＋乳，小麦＋肉，小麦＋乳，小麦＋肉＋乳という項目別に色分けしてあるのが特徴である．

2.2　世界の農耕文化の諸類型

第 3 回の授業では佐々木高明「農耕・農耕文化」（『文化人類学事典』）の資料を配布した（佐々木 1987）．佐々木高明は，中尾佐助の『栽培植物の起源』（岩波書店，1966 年）を参照体系として（中尾 1966），世界の農耕文化を次のように分類している．

（1）旧大陸の農耕文化　①麦作農耕文化，②根栽農耕文化，③雑穀農耕文化，（2）新大陸農耕文化　①新大陸の根栽農耕文化，②新大陸の雑穀農耕文化．メソポタミアの多雨ステップ地帯起源の麦作農耕文化，東南アジアの熱帯雨林を起源とした根栽農耕文化，アフリカやインドのサバンナ地帯に起源とした雑穀農耕文化．新大陸の根栽農耕文化と雑穀農耕文化は新大陸農耕文化と類型分けされている（佐々木 2007:104）（表 1 参照）．

表 1　世界の農耕文化の諸類型

農耕文化の大類型	起源地	農耕形式	農耕文化
根栽農耕文化	東南アジアの熱帯森林地域	ウビ農耕	根栽農耕文化
雑穀農耕文化	アフリカおよびインドのサバンナの夏雨地域	カリフ農耕	サバンナ農耕文化
麦作農耕文化	オリエントのステップ冬雨地域	ラビ農耕	地中海農耕文化
新大陸農耕文化	メキシコ，中央アフリカ，アマゾン周辺の熱帯地域	新大陸農耕	新大陸農耕文化

〈出典〉佐々木（2007:105）（一部改変）

第 3 回の授業では，（1）旧大陸の農耕文化　①麦作農耕文化，②根栽農耕文化，③雑穀農耕文化，（2）新大陸農耕文化　①新大陸の根栽農耕文化，②新大陸の雑穀農耕文化について，5 班に分けて模造紙に書いて発表するという形式で授業を展開した．アクティブラーニングという「学生の能動的な学習活動を取り入れた教育法の総称」をとりいれようとした（永田・林 2016:i）．つまり，授業でのグループワークを通して協働で作業をすることで理解を深めることをめざした．ディベートも団体で質疑応答することになるので個人発表よりも活発に行われる結果となった．大人数・聴講型の授業形式とは異なる少人数・参加型の授業形式をとったことで授業中に受講生が何らかの能動的な学習活動を行うこと

ができたのではないか．地図を描いたり，とうもろこしやじゃがいもや小麦の絵を描いたり，インカ帝国を書いたりするのが受講生にとっては楽しいようにもみうけられる．このような学習は必ずしもコンピュータやインターネットなどの ICT 環境を必要としないが，タブレット PC を使えばもっと効果的になるのかもしれない．

第 4 回の授業では，第 2 回の授業で課題として出した世界の農産物に関する「新聞づくり」の発表を行った．これらの新聞には，①コーヒー新聞，②タロイモ新聞，③じゃがいも新聞，④トウモロコシ新聞，⑤カカオ新聞，⑥とうもろこし新聞，⑦茶新聞，⑧じゃが芋新聞，⑨米の新聞，⑩とうもろこし新聞があった．小・中学校，高等学校の教育現場では新聞を学習材料とする新聞を活用する NIE（教育に新聞を）が行われている．新聞づくりは小・中学校，高等学校の教員をめざす学生にとって必須のスキルである．ICT 活用で新聞づくりが行われている小学校の事例も報告されている（城島 2013:12-14）．

2.3　照葉樹林文化―東アジアのなかの日本

第 5 回の授業では「照葉樹林文化」をとりあげた．上山春平編『照葉樹林文化　日本文化の源流』（中央公論社，1969 年），上山春平・佐々木高明・中尾佐助編『続・照葉樹林文化　東アジア文化の源流』（中央公論社，1976 年），特に佐々木高明『照葉樹林文化とは何か　東アフリカの森が生み出した文明』（中央公論新社，2007 年）をテキストとした．なお，照葉樹林文化と比較するために落葉広葉樹林文化もとりあげた阿久津昌三「日本文化の地域性をめぐって」（阿久津 1988）もテキストとして使用した．信州大学のキャンパスの生態系を理解してもらうためである．南信地域には照葉樹林帯があり，北信地域にはブナ帯がある．言い換えれば，照葉樹林文化とブナ帯文化との比較参照することもできる．

３．世界の主な食べ物

3.1　レポート課題と ICT 活用

レポート課題を出すにあたって信州大学の図書館ポータル MyLibrary の検索方法を教授した．つまり，信州大学附属図書館 OPAC を使うと本学の図書検索ができ図書を借り出せること，CiNii Books で他大学の図書検索ができること，CiNii Articles で論文を検索することができることなどを授業のなかで教授した．教育学部の学生は長野市立図書館で図書を借りることが多いのでその検索方法も教授した．これらの検索方法を学んでおくことは卒業研究の執筆にも役に立つからである．しかしながら，レポートを作成するのに図書館で適切な図書を選択することは学生にとって簡単なことではない．そこでレポート課題に見合った選定図書を授業のなかで提示し解説をした（表 2 参照）．

レポートでは「世界のおもな食べ物」という課題を出した．パワーポイントで，図表・地図を作成すること，口頭発表（プレゼンテーション）を想定して作成することとし，文字のポイントは講義室の画面に映して発表することに留意することという指示をだした．また，発表時間は 20 分程度とした．

レポート課題は締め切りの約 1 か月前に eALPS に掲載され，同時に，受講生にはレポ

ート課題が出たことがメールで知らされるシステムになっている．eALPS の長所は受講生がレポートをいつ出したのか更新日時がわかり，紙媒体のレポートと違い，レポートを出していないとか出したはずだとかの学生とのトラブルがないことである．第 6 回，第 7 回，第 8 回の授業ではレポート課題でどのようなテーマをとりあげるのかを受講生がレジュメを用意して口頭発表を行いレポート及び論文の書き方等の指導を行った．NHK 高校講座の「地理」「世界史」などの録画も利用した．

表２　レポート課題の選定図書（世界の農作物）

角山栄『茶の世界史　緑茶の文化と紅茶の社会』中央公論社，1980 年
小林貞作『ゴマの来た道』岩波書店，1986 年
大津和子『社会科＝一本のバナナ』国土社，1987 年
吉田よし子『香辛料の民族学　カレーの木とワサビの木』中央公論新社，1988 年
福田一郎・山本英治『コメ食の民族誌　ネパール・雲南と日本』中央公論新社，1993 年
臼井隆一郎『パンとワインを巡り神話が巡る』中央公論新社，1995 年
臼井隆一郎『コーヒーが廻り世界が廻る　近代市民社会の黒い血液』中央公論新社，1997 年
キャロル・オフ『チョコレートの真実』北村陽子訳，英治出版，2007 年
山本紀夫『ジャガイモのきた道　文明・飢饉・戦争』岩波書店，2008 年
伊藤章治『ジャガイモの世界史　歴史を動かした「貧者」のパン』中央公論新社，2008 年
武田尚子『チョコレートの世界史』中央公論新社，2010 年
辻村英之『おいしいコーヒーの経済論』太田出版，2012 年
辻村英之『農業を買い支える仕組み　フェアトレードと産消提携』太田出版，2013 年
高野潤『新大陸が生んだ食物―トウモロコシ・ジャガイモ・トウガラシ』中央公論新社，2015 年
山本紀夫『トウガラシの世界史　辛くて熱い「食卓革命」』中央公論新社，2016 年

提出されたレポートの題名は，①コーヒーの日本史，②太平洋におけるタロイモ，③アイルランドの大飢饉，④砂糖の生産―地中海沿岸から新大陸へ，⑤カカオ生産とフェアトレード，⑥トウモロコシとメキシコ，⑦コーヒー・紅茶の文化，⑧大豆の加工とその歴史，⑨米の歴史とヨーロッパの米文化であった．授業での口頭発表（プレゼンテーション）の前に，eALPS 上で「学生による学生のための学生の投票」と題して「優れていると思うものを 1 位から 3 位まで選んで投票してください」を実施した．質問 1 は「1 番優れていると思うのはどの提出課題だと思いますか」，質問 2 は「2 番優れていると思うのはどの提出課題だと思いますか」，質問 3 は「3 番優れていると思うのはどの提出課題だと思いますか」というものであった．

3.2　口頭発表とレポート及び論文の書き方

学生相互の提出課題の評価は，学生が口頭発表（プレゼンテーション）の前に他の受講生の提出課題を事前によく読んでおくことを意図して実施したものである．第 10 回，第

11 回，第 12 回の授業では口頭発表（プレゼンテーション）を実施した．第 13 回，第 14 回，第 15 回では第 2 回レポート課題に向けたレポート及び論文の書き方を教授した．第 2 回レポート課題は eALPS 上に添付してある原稿用紙をもちいて提出することをもとめた．学生にとってパワーポイントで口頭発表（プレゼンテーション）の資料を作成することに慣れていても文字だけでレポートを書くことは容易ではない．

原稿用紙で提出されたレポートの題名は，①日本のコーヒーの暗黒時代，②太平洋地域におけるタロイモ栽培，③アイルランドの大飢饉，④砂糖の生産消費からみる三角貿易，⑤カカオ生産と児童労働，⑥トウモロコシの遺伝子汚染問題，⑦コーヒーハウスから考える現在の公共圏，⑧醤油の地域特性とその受容について，⑨稲作の起源と世界の米食文化であった．

4．世界の家畜と牧畜文化の諸類型

4.1　世界の家畜

「世界の家畜」をテーマにして eALPS を活用して文化人類学の授業実践を行ったのは 2016 年度後期の「文化人類学Ⅰ」の授業である．「世界の主な農産物」と同様の授業計画で実施したので，「世界の家畜」の実践報告については紙幅の関係で省略せざるを得ないことをおことわりしておきたい．

帝国書院の『社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の国土』の「世界の家畜・鉱産物」には，肉牛，豚（ヨークシャー，バークシャー），羊（メリノ種，コリデール種），乳牛（ホルスタイン，ジャージー），らくだ（ひとこぶ，ふたこぶ），リャマ，アルパカ，東京書籍の『新編　新しい社会　地理』の「世界の主な家畜」には，肉牛，乳牛，豚，羊，にわとり，リャマ，アルパカ，ラクダ，やぎ，トナカイ，馬が解説とともに掲載されている．

4.2　牧畜と牧畜の諸類型

人類の生業経済には，採集・狩猟，牧畜，農耕の 3 つのタイプがある．採集・狩猟とは「木の実などの野生の植物を採ったり，魚を含めた野生の動物を獲ったりする生業」のことである．農耕とは「植物の繁殖を人間が手伝い，その稔りを生活の糧とする生業」のことである．これに対して，牧畜とは「動物の群れを管理し，その増殖を手伝い，その乳や肉などを利用する」ものである．これらの動物を一般に家畜（domestic animal）と呼んでいる．東京書籍に掲載されている「にわとり」を除けば，「世界の主な家畜」とは「群れをつくること」と「蹄をもつ動物」であるという特徴がある．つまり，家畜とは群居性と有蹄類の動物のことである．有蹄類は、蹄が 2 つにわれている偶蹄目と，蹄が 1 つしかない奇蹄目に分類される．偶蹄目には，ウシ科（ウシ，ヤク，ヒツジ，ヤギ），ラクダ科とシカ科（トナカイ）などがある．また，奇蹄目に相当するのがウマ科（ウマ，ロバ）である（福井 1982:806）．

これらの家畜をとりあげてみると，世界にはアフリカのサバンナに分布するウシ牧畜，砂漠とオアシス地域のラクダ牧畜，中央アジアのステップの混合牧畜，地中海からアフガ

ニスタンにかけてのヒツジ牧畜，最も北に位置するトナカイ牧畜に分類される（福井 1982:810）.

4.3 「家畜」の教材を探す

文化人類学ではエヴァンズ＝プリチャード『ヌエル』(1940 年),『ヌエルの親族と結婚』（1951 年),『ヌエルの宗教』(1956 年）の民族誌をとおして牧畜民の生活と世界観を探求するのが定番である．また，京都大学を中心としたアフリカの牧畜民の研究はたくさんがあるが教育学部の学生を対象にこれらの民族誌を読ませるのはあまり意味のないことである．そこで教材に選んだのが名香智子の初期の代表作『ファッション・ファデ』という 1978 年から 79 年まで『週刊少女コミック』に連載された漫画である．アフリカで生まれ育った少女ファデがパリのファッション業界でデザイナーとして成功を収めていくサクセス・ストリーである．ファデの父は人類学者でヌエルを調査している（田中 2005:3-12）.

表３　レポート課題の選定図書（世界の家畜）

シムチェッコ『極北の人たち』加藤久祚訳，岩波書店，1972 年
D・P・コウル『遊牧の民ベドウィン』片倉もとこ訳，社会思想社，1982 年
堀内勝『ラクダの文化誌』リブロポート，1986 年
小川了『サヘルに暮らす』日本放送出版協会，1987 年
マーヴィン・ハリス『食と文化の謎』板橋作美訳，岩波書店，1994 年
稲村哲也『リャマとアルパカーアンデスの先住民社会と牧畜文化』花伝社，1995 年
嶋田義仁『牧畜イスラーム国家の人類学』世界思想社，1995 年
谷泰『牧夫フランチェスコの一日』平凡社，1996 年
小長谷有紀『モンゴル草原の生活世界』朝日新聞社，1996 年
谷泰『神・人・家畜―牧畜文化と聖書世界』平凡社，1997 年
葛野浩昭『サンタクロースの大旅行』岩波書店，1998 年
島崎美代子・長沢孝司編『モンゴルの家族とコミュニティ開発』日本経済評論社，1999 年
松井権『遊牧という文化―移動の生活戦略』吉川弘文館，2001 年
関野吉晴『トナカイ遊牧民とくらす』小峰書店，2002 年
小長谷有紀『北アジアにおける人と動物のあいだ』東方書店，2002 年
吉田睦『トナカイ牧畜民の食の文化・社会誌』彩流社，2003 年
上羽陽子『インド・ラバーリー社会の染織と儀礼』昭和堂，2006 年
池谷和信『現代の牧畜民―乾燥地域の暮らし』古今書院，2006 年

中学校の地理の教科書には必ずといってマサイのことが記載されている．ウシの糞でつくられたマサイの住居や長い槍をもってジャンプするマサイの踊り，最近では携帯電話をもったマサイなどが写真入りで掲載されている．この牧畜民マサイを出発点として，東アフリカのウシ文化複合の牧畜民の生活について，西アフリカのフルベ牧畜民について，さ

らに南スーダンのヌエルとシルックとの民族紛争と授業を展開している(ここまで来ると，エヴァンズ＝プリチャードのヌエル研究及び他の人類学者のシルック，ディンカ研究などの民族誌に言及することができる)．特に，NHK の「BS 世界のドキュメンタリー」などを録画して教材化している．

帝国書院の教科書には，第 2 章「世界各地の人々の生活と環境」のなかで，らくだ市（サウジアラビア)，西岸海洋性気候の酪農（オランダ)，ステップ気候での遊牧生活（モンゴル)，ツンドラ気候のカリブーの群れ（アメリカ）乾燥した地域でのらくだの遊牧（サウジアラビア）トナカイや馬の毛皮の防寒着を着た子どもたち（ロシア)，アルパカの放牧（ペルー）がとりあげられている．

第 3 章「世界の諸地域」のなかで，1 節「アジア州」では「アラビア半島に広がる砂漠（砂漠の移動には，乾燥に強いらくだが古くから使われていました)」，2 節「ヨーロッパ州」では「西岸海洋性気候の牧畜・酪農」,「混合農業地帯で飼われている豚」（ドイツ)，3 節「アフリカ州」では「マサイのおどり」（タンザニア),「サハラ砂漠をこえる人々」（リビア)，4 節「北アメリカ州」では「大規模な肥育場（フィードロット)」（東海岸や五大湖周辺ではでは酪農がさかんで，ニューヨークやシカゴなどの大都市に乳製品を供給しています)，5 節「南アメリカ州」では,「パンパでの牛の放牧」(アルゼンチン),「牛肉の生産」（アメリカ合衆国，ブラジル，中国，アルゼンチン)，6 節「オセアニア州」では,「オーストラリア内陸部での牛の放牧」(アリススプリングス近郊),「ニュージーランドの羊や牛などの牧畜」,「フィードロート」(オーストラリア),「オーストラリアの牛肉の輸出先」,「オーストラリアとニュージーランドの産業」,「羊と牛の分布」（オーストラリア）がとりあげられている．

これらの牧畜に関する基本情報は，例えば，信州大学教育学部図書館及び長野市立図書館に所蔵されていて入手しやすい『サウジアラビアを知るための 65 章』,『モンゴルを知るための 65 章』,『ケニアを知るための 55 章』,『現代ドイツを知るための 62 章』,『オーストラリアを知るための 56 章』(明石書店) などに眼を通してから，テーマを決めてから，文献を探すように指示した．「世界のおもな農産物」と比較すると「世界のおもな家畜」は，イヌやネコやニワトリなどの「身近な動物」とは違って，受講生にとってテーマ設定がなかなか難しいようである（阿久津 1997)．

文献

阿久津昌三，1988，日本文化の地域性をめぐって，信州大学教育学部紀要，第 64 号，pp.9-20

阿久津昌三，1997，境界を侵犯する動物―特に，図像と物語を中心として，岩波講座文化人類学　10　神話とメディア，岩波書店，pp.229-249

上山春平編，1969，照葉樹林文化　日本文化の源流，中央公論社

上山春平・佐々木高明・中尾佐助編，1976，続・照葉樹林文化　東アジア文化の源流，中

央公論社
佐々木高明，1987，農耕・農耕文化，文化人類学事典（石川栄吉・梅棹忠夫・大林太良・蒲生正男・佐々木高明・祖父江孝男編）弘文堂，pp.575-577
佐々木高明，2016，照葉樹林文化とは何か　東アジアの森が生み出した文明，中央公論新社
城島徹，2013，新聞活用最前線，清水書院
田中雅一，2005，ジェンダーとセクシュアリティの文化人類学，ジェンダーで学ぶ文化人類学（田中雅一・中谷文美編），世界思想社，pp.1-19
帝国書院，2016，社会科　中学生の地理　世界の姿と日本の国土，帝国書院
東京書籍，2016，新編　新しい社会　地理，東京書籍
永田敬・林一雅，2016，アクティブラーニングのデザイン，東京大学出版会
中尾佐助，1966，栽培植物と農耕の起源，岩波書店
福井勝義，1982，牧畜社会の生活，社会科のための文化人類学（星野平和編集代表），東京法令出版，pp.806-827

（2017 年 6 月 6 日　受付）